

平成 25 年度三重大学 PBL 教育支援プログラム 応募要領

高等教育創造開発センター

平成26年度、PBL導入予定の授業科目に対して、10万円または5万円の教材開発費・授業開発費（平成25年度予算）を、または授業に係るアルバイト人件費（平成26年度予算）を選考を経て支援します。支援を希望される場合は、別紙の申請書に必要事項を記入し、平成25年11月13日（水）までに提出してください。

プログラムの目的

本プログラムは、学生の主体的な学習を促進する授業科目を財政的に支援するとともに、その実践と成果を学内の関係者と共有することにより、本学の教育の質を一層向上させることを目的とします。本年度は、PBL授業（一部PBLを活用する授業も含む）において、学生に行わせる「ふり返りの工夫」をテーマとします。自己省察、グループ省察、ふり返りシート、ルーブリック、Moodleやe-Portfolioの活用など、授業効果を上げるためのふり返りの工夫をご紹介します。

プログラムの内容

- ・担当する授業科目において、PBL教育（Problem-based Learning）を生かして学生の主体的な学習を促そうと試みている教員に、教材開発費・授業開発費を支援します。
- ・応募の中から、支援対象となる授業科目を高等教育創造開発センターが選考します。（応募者には、コメントを付けて選考の結果を通知します。）
- ・申請に際して、要望があれば、高等教育創造開発センターの関係者が教材開発・授業開発に関する個別相談や情報提供などのサポートに応じます。
- ・取組の成果を三重大学の関係者と広く共有するために、高等教育創造開発センターが発行するニューズレター（2,500～3,000字）や発表会等によって、活動の内容、方法、成果を報告していただきます。（過去の成果報告はHEDCホームページに掲載されています。）
- ・申請時には、『三重大学版Problem-based Learningの手引き』（2011年1月発行）の中から、授業科目で導入するPBLの類型（p.7参照）を一つ選択してください。

<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/local/pdf/PBLmanual-201101.pdf> 参照。

問題提示型PBL（事例シナリオの活用を含む）

学習の契機になる問題との出会いを教員が提示することによって学習が展開する。学習課題の設定や学習の進行は学生の自己決定による。

問題自己設定型PBL

学習の契機になる問題や学習課題はすべて学生自身が設定する。

プロジェクト型PBL

学内外の要請や課題設定に基づいて、特定の企画の遂行・達成を目指す。

実地体験型PBL

様々な場での実地体験を通して、問題と出会い、問題・課題を発見し、問題解決を進める。

- ・ PBL授業の質を向上させる次のポイントのうち、申請する授業で取り組むふり返りの工夫について、該当するものをすべて選択してください。

- | | | | |
|------------|--------------------------------|---|--------------------------------|
| 1. ふり返りの対象 | <input type="checkbox"/> 自分 | <input type="checkbox"/> グループ活動 | |
| 2. ふり返りの主体 | <input type="checkbox"/> 自分 | <input type="checkbox"/> ピア（同僚） | <input type="checkbox"/> 教員 |
| 3. ふり返りの方法 | <input type="checkbox"/> 記述 | <input type="checkbox"/> Moodle・e-Portfolio | <input type="checkbox"/> 口頭 |
| 4. ふり返りの回数 | <input type="checkbox"/> 毎回 | <input type="checkbox"/> 1学期に複数回 | <input type="checkbox"/> 学期に1回 |
| 5. ふり返りの根拠 | <input type="checkbox"/> 主観 | <input type="checkbox"/> ループリック | <input type="checkbox"/> 客観的指標 |
| 6. ふり返りの目的 | <input type="checkbox"/> 思考の深化 | <input type="checkbox"/> 態度の涵養 | <input type="checkbox"/> 授業の評価 |

支援の条件

本プログラムの支援対象となる科目の条件は、次のとおりです。

- ・ 三重大大学の専任教員（特任教員を含む）が担当する授業科目
- ・ 平成26年度に開講予定の授業科目
- ・ 学士課程（共通教育科目を含む）の授業科目、大学院修士課程・博士前期課程・博士後期課程の授業科目

※「ふり返りの工夫」の種類ごとに採択数が決まっているわけではありません。

※「三重大大学PBL教育支援プログラム」の支援を過去に受けた教員が同一の授業科目を対象として応募することもできます。新たに工夫する内容を詳しく記してください。

申請方法

申請書（別紙）及び教材を下記のMoodleまで提出してください。

Moodle「教職員専用」⇒「2013PBL教育支援プログラム」。コースキー「2013pb1」です。

申し込みの締め切りは平成25年11月13日（水）17:00です。（申請書は、上記Moodleから、または高等教育創造開発センターのホームページ <http://www.hedc.mie-u.ac.jp/> からダウンロードできます。）

予算配分と成果報告

平成25年12月 支援対象科目の決定、

予算配分の開始（アルバイト人件費補助枠以外は平成25年度中に執行）

平成26年度～平成27年度 成果の発表会、ニューズレターへの投稿等

留意点

- ・ 本プログラムは、優れた取り組みを選抜したり問題のある取り組みを更正したりすることではなく、三重大大学の教員の教育活動を支援し、その成果を関係者と共有して、学びあうことを目的としています。
- ・ PBL教育のこれまでの授業事例は、『三重大大学版Problem-based Learningの手引き』か、高等教育創造開発センターのホームページに掲載されたものをご覧ください。また、ふり返りシート等の事例としては、全教員に配布された『三重大大学「4つの力」スタートアップセミナー2013年度版』をご参照ください。

申請書やこれらの関連資料は、上記Moodleからダウンロードできます。

本件に関する問い合わせ先

高等教育創造開発センター教育開発部門 中川正 nkgw@human.mie-u.ac.jp 内線9102